

一第53編一 王室が開発した都市住居群

190 haの広さを持つリージェンツ・パーク^{*1}の周囲を3 kmにわたって取り囲む19世紀のタウンハウス群は、ロンドンでも最も壮大な都市景観を誇る。この住宅群は19世紀の初めに(1812-25)、イギリス王室によって開発された。デザインはロンドンを造った建築家と呼ばれるジョン・ナッシュ^{*2}である。王室の狩猟場であったこの場所を公園にし、

合わせてここに裕福な市民のための住宅を建設した。そして都市公園は、当時の上流市民階級の社交の場として整備された。こうして、リージェンツ・パークとタウンハウス群は、彼らにとってのウエストエンドを代表する檜舞台とも言うべき役割を果たしたのである。

キーパーソンであるナッシュは19世紀初頭に活躍したイギリスの建築家・都市計画家である。1798年にジョージ4世の愛人と召される人物と再婚し、ロンドンでは当時唯一人の宮廷都市計画家・サーベイヤー^{*4}となった。



写真53-1 リージェンツ・パーク俯瞰

*1
The Regent's Park:
ロンドン北部にある王
立公園
*2
John Nash
(1752~1835)

*3
George IV
(1762~1830)

*4
Surveyor: 測量技師

また、同時代のピクチャレスク運動^{*5}においても活躍し、このような華々しい経歴によって、1811年には王室が所有する土地の開発を依頼される。こうして、リージェンツ・パークとリージェント・ストリートのデザインを1813年から1825年まで手がけることになったのである。

計画に着手した当時、彼はすでに60歳だったが、将来の田園都市を予見する想像力に富んだ理念を実体化する一方、事業のすべてを遂行する情熱と能力を維持し続け、任期中に完成させた。自信家で融通が効き、社会的に成功したが、意匠的には保守的で、細部にはむしろ鷹揚だった。すなわち、大きなスケールの建築が及ぼす全体的な影響に本能的に精通し、室内空間よりもむしろ外観に主な関心があった建築家であったとされる。そのきらびやかな様式の羅列と不規則な平面およびシルエットにより、建築とまちづくりにおける絵画性を象徴し、「自由と儀礼のピクチャレスクな結合」を実現したというのが、彼の仕事に対する一般的な評価である。



写真53-2 ピクチャレスクな連続都市住居



写真53-3 公園越しの都市住居

*5
Picturesque
Movement: 18世紀後半に「絵のような」イギリス式風景の基準となる